



contents

[コラム]

国語科教育における情報教育の必要性
…上松恵理子

[解説]

小中高生向け国際情報科学コンテスト Bebras
…谷 聖一 兼宗 進 井戸坂幸男

[解説]

プログラミング学習の広がり
…石戸奈々子基
般 Column

国語科教育における情報教育の必要性



日本の国語科教育は「読むこと」「書くこと」の文字のリテラシーを中心に、近年では「話すこと」「聞くこと」が加わり、授業が行われている。ところが現在、一般生活ではこれらの4つのどれもがデジタルを介して行われていることは周知のことである。デジタルな情報が溢れている社会においては、デジタルなりテラシーが必須となってきており、国語科教育もその例外ではない。しかし、我が国の国語科教育は時代に沿ったものになっているのだろうか。

というのも、海外の国語科の授業においては、たとえば Shakespeare (シェイクスピア) のような古典的な文章を読む一方で、シナリオを書き、動画を撮影して映像を制作するということが行われている事例がある。また、情報先進国といわれている国々では、国語科の授業の中で日常的に、パソコンやタブレット端末を使った調べ学習が行われている。中にはすべての教科で使っている学校さえある。

以前視察した海外の小学校では、常に世界中の情報源にアクセスすることができるインターネット環境が整っていて、授業で書いた作文を教師に提出するだけでなく、ネットを介して校内のクラスメイトと作文を共有し、教室を超えたコミュニケーションが行われていた。教師にインタビューをしてみると、国語科教育でパソコンを使うようになってから、小学生でもワープロソフトを使った文書作成に慣れ親しむようになり、校正がより簡単にできるという特徴を活かして加除訂正を行いながら長い文章を書くことができるようになったという。

現在、日本の国語科の学習指導要領では、メディアについて触れている箇所も増えつつあり、コミュニケーションスキルを高める授業も行われてきてはいる。しかし、デジタル時代のリテラシーはグローバルな観点から見ればマルチ・リテラシーといわれる多様なものであり、これから必須のデジタル読解力や文章の作成能力を高めるために、国語科教育の果たすべき役割があるように思う。国語科教育においても情報教育のスキルが必要な時期がきている。

今日の日本の子どもたちは、生まれながらにしてデジタル機器に囲まれ、スマートフォンのアプリを使いこなしているデジタルネイティブである。政府の行程表にあるように、1人1台の端末が学習の場に導入された場合、国語科の授業で端末を使い、調べ学習をしたり、SNSで意見を共有したりしようという学習活動が日常的になってくるだろう。よって、国語科の教員といえども情報スキルが必要となってくる。もはや紙の本やノートと鉛筆だけを使う時代ではない。社会のニーズに沿った国語科教育がこれからは求められるのではないだろうか。

上松恵理子 (武蔵野学院大学)